

市政レポートは、市議会定例会の翌月（1, 4, 7, 10月）に発行しています。

改革は必要、しかし、大切なのはその中身

構造改革、議会改革、公務員制度改革、これら改革の必要性については、大半の方が賛成するでしょう。しかし、小泉政権下で行われた構造改革では、結局、国の借金が減ることもなく、痛みだけが残ったのではないのでしょうか。改革といってもその中身は、弱者切り捨て、地方の負担増という格差社会の拡大でした。

イメージや雰囲気に関わることなく、その中身をしっかりと見極めなければ、誤った選択をしてしまう危険性があります。政治は選挙で選ばれた議員や市長の仕事です。しかし、その政治によって我々の生活が良くなるのか悪くなるのか、最終的な責任は我々選ぶ側にあります。

平成19年度決算、市債は減少

9月の市議会定例会において、平成19年度決算審査が行われました。市債残高は前年より44億円減少して、1,083億円となりました。平成16年度から4年連続で減少しているものの、人口減少などによる収入減、少子化や高齢化などによる負担増の将来的な見通しを考えると楽観はできません。また、財政の健全化を判断する指標となる実質赤字比率や将来負担比率などは、本市の財政が安全水域にあることを示しています。しかし、経常収支比率は92.9%と高く（一般的に都市においては70~80%が適正）、財政の硬直化は解消されていません。

今後もしっかりとした行政サービスを行うには、収入を増やすことが大切になります。そのためには、競馬場跡地の東側半分の使い方や、足利日赤が移転した後の跡地利用をどうするかが非常に大切になってきます。



織原 義明（おりはら よしあき） 略歴

- 1965年 足利市生まれ/西小学校、第一中学校、足利高等学校を経て
- 1989年 山形大学理学部地球科学科卒業
- 1990年 一般企業に入社 塾講師、制作、企画営業を経験
- 1996年 科技厅（現文科省）主導による地震予知研究プロジェクトに参加
理化学研究所研究員
- 2003年 足利市議会議員に初当選
- 2007年 足利市議会議員に二期目の当選、建設防災常任委員会副委員長

9月定例会一般質問より

◆ 市民活動に対する資金的な支援について

<質問内容>

市が資金的な支援をすべきと考える市民活動はどのようなものか。

<市側答弁>

公益性の高い事業には、市が援助すべきであると考えている。

<質問内容>

例えば、市民団体の「あしかが子育て応援ネット」が作成している子育てガイドブックのような事業は、真岡市では市が実施しているように、公益性の高い事業である。補助金といった形での支援が無理ならば、必要な部数を市が買い取るなど別の方法で資金的な支援ができないものか。

<市側答弁>

この子育てガイドブックは市民や企業などからの寄附で作られていたかと思う。広告が記載されている版を市が買い取るというのは難しいが、広告が掲載されていない版について、可能かどうか検討してみたい。

◆ 学校給食における地産地消と米飯給食の拡大について

<質問内容>

学校給食の食材における足利産の割合について、数値目標を設定し、その割合を増やすことはできないか。

<市側答弁>

地元産の割合を増やしていきたいが、数値目標の設定までは考えていない。

<質問内容>

輸入小麦の高騰や農薬など安全性の面からも米が見直されている。また、日本人の体質を考へても米飯の方がよりいいと言われている。給食における米飯の拡大は考えられないか。

<市側答弁>

現在は週3回が米飯である。これを週4回にするとすると設備の面から厳しいところがある。月単位などで可能かどうか検討してみたい。

<コメント>

完全米飯給食を実施している新潟県三条市では、まだ3年間のデータしかないものの、児童生徒の肥満率が下がる傾向にあるとのことだった。パン給食の背景にはアメリカの小麦消費拡大戦略があったという事実や、食糧自給率が40%程度という現状も踏まえ、日本の農業のあり方を考え直す時期なのかもしれない。

* 緑風会会派行政視察 *

7月28,29日に緑風会の行政視察で、新潟県の新発田市と三条市を訪れました。

- 新発田市「まちづくり基本条例について」「指定ごみ袋制度について」
- 三条市「完全米飯給食と地産地消（食育の推進）について」

「まちづくりサポート交付金制度について」

新発田市のまちづくり基本条例は、「行政が考える前に市民の考えを」といったスタンスで、市民と市との協働による作業で行われました。また、新発田市では、県立病院の移転に伴う跡地活用が現在進行中です。跡地活用のアイデアを市民から募ったところ、35件ものアイデアが集まったとのことでした。同様のことを旧西小学校跡地活用でもやるべき！と再三議会で主張していますが、本市の行政は消極的です。非常に腹立たしい思いです。

三条市の完全米飯給食については、パン屋さんが給食のご飯も炊いていたといった事情があったからこそ、実現できたように思えました。しかし、日本人にはパン食よりも米食の方が向いていることもよく理解でき、9月の議会質問で米飯給食の拡大をテーマのひとつとしました。また、地産地消をベースにした給食への食材供給方法も、本市とは異なっており、今後の検討事項といえます。

まちづくりサポート交付金制度は、本市の市民活動支援補助金に似ていますが、利用頻度が桁違いに多いので、視察してきました。この件も9月議会の質問として取り上げ、本市の市民活動支援のあり方について、その問題点の指摘と改善の提案を行いました。



新発田市で担当から説明を受けている様子

★ 第6回オープンミーティング ★

市民の皆様との直接対話の場として設けた第6回目のオープンミーティングを、市民会館にて9月5日に開催しました。今回はこれまでに皆様からいただいたリクエストの中からテーマを選び、インタービジネスパークの収支、中橋の架けかえ問題、平和都市宣言に関連した事業、ごみ問題関連、バスの運行関連の5つについて意見交換を行いました。

織原義明のおもな活動(2008年7~9月)

- 7月2日 足利市防災会議
- 7月6日 足利市水防演習並びに夏期点検、第4回ローカルマニフェスト推進地方議員連盟研修会
- 7月7日 「地方分権推進」栃木県大会(宇都宮市)
- 7月13日 足利市歯科衛生士会研修会
- 7月16,17日 自治体フェア2008(東京)
- 7月22日 広報委員会、建設防災常任委員協議会
- 7月26,27日 市民と議員の条例づくり交流会議2008(東京)
- 7月28,29日 緑風会会派行政視察(新発田市・三条市)
- 8月6日 平成20年度栃木県議会県土整備委員会現地調査(小俣公民館)
- 8月20日 会派幹事長会議、広報委員会
- 8月22日 議会運営委員会
- 8月23日 機神山山頂古墳第1次発掘調査現地説明会
- 8月28日 全員協議会
- 8月29日 市議会定例会本会議
- 8月30日 女と男のフォーラム2008
- 9月5日 第6回おりはらよしあきオープンミーティング(市民会館)
- 9月7日 名草フラワーフェスティバル
- 9月8日 市議会定例会本会議
- 9月9日 市議会定例会本会議にて一般質問
- 9月10日 市議会定例会本会議
- 9月11日 建設防災常任委員会
- 9月12日 民生教育常任委員会(傍聴)
- 9月15日 草雲没後110年記念事業「十六夜を愛でる会」(草雲美術館)
- 9月16日 決算審査特別委員会(一般会計)
- 9月17日 決算審査特別委員会(特別会計)
- 9月19日 議会運営委員会、市議会定例会本会議
- 9月24日 講演会「まちなか再生のころみ」
- 9月27日 けやき小学校運動会、講演会「地域に共生の輪を広げて」

※ホームページでは、毎週の活動報告等を随時更新しています。

<http://www.watarase.ne.jp/orihara/>

<政務調査費の公開>

足利市では市議会議員の調査研究に資するため、必要な経費の一部として議員個人に対し、年間84万円の政務調査費を交付しています。その収支報告書は、情報開示により閲覧が可能です。

4~9月分合計(暫定)

収入 420,000円 - 支出 527,396円 = -107,396円

<内訳>

研究研修費：72,740円、調査旅費：49,690円、資料作成費：0円、人件費：0円

資料購入費：52,275円、広報広聴費：278,986円、事務費：73,705円、その他の経費：0円

暫定ですが、9月までの半年間の支出額は支給額を上回っています。オープンミーティングや市政レポートなどにかかる広報広聴費が多い状況です。